

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

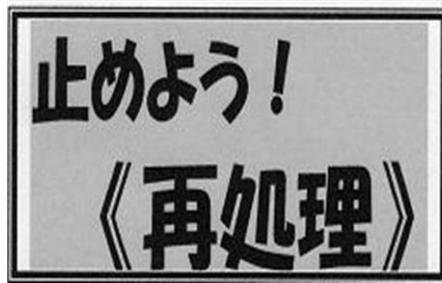
郵便振替 02240-5-102650

ホームページ《再処理 / 岩手の環境》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2011(平成23)年

7月 20日

第101号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

共に頑張るぞ！ 放射能汚染から三陸の海を守れ

決意も新に運動を再開

豊かな三陸の海を守る会総会



私たち「岩手の会」と一緒に活動してきた「豊かな三陸の海を守る会」(田村剛一会長・会員二二二人)が七月十日(日)宮古市のシーアリーナで定期総会を開催しました。
今回の地震大津波は、漁船や漁業施設ばかりか市街地にまで壊滅的な打撃を与え、六人の会員を奪い、未だに二十人の会員が仮住まい生活を強いられています。このような苦しい状況のもと、総会では、冒頭に全員で黙祷を捧げ、豊かな海を守り、三陸の復興を誓い合いました。

「三・一一」を

乗り越えて、

田村会長あいさつ

三陸の被害は目を覆うばかりの大被害であり、私たちの仲間から死者一人、行方不明者五人の犠牲を出しました。家族、知人、友人を失い、家や生活手段を失った会員は数十人になりました。しかし私たちは「三・一一」を乗り越えて生きてゆかねばなりません。六力所再処理工場の放射能から三陸の海を守る運動を、福島原発震災を教訓に、更に強めなければなりません。三陸に住む人々の命と健康、漁業を守るために

運動を再開しましょう。

被災者救援

互助活動に奮闘

菅野事務局長報告

経過報告では自治体

議員、国会議員への要請

活動を進め、学習会(崎

山、山田地区など)を行

い、さらに、わかめ、海

水の放射能測定サンプ

ルを採種し依頼(京都大

学)したこと、また、「三

陸の海を放射能から守

ろう」の立て看板設置

(田老町、山田町)、創

立五周年記念懇親会を

行ったことなどが報告

されました。

三月一日大震災以

降では、会員挙げて家屋

などの後片付け、救援物

資受け入れ配布、ポラン

ティア活動案内などに

奮闘したことが報告さ

れました。特に救援物資

として寄贈された、太陽

光発電「設備工事(二ヶ

所)に立ちあつたことや

山田湾沿いに設置した

「立て看板」が大津波に

さらわれたが、松林の枝

に引っかかって奇跡的

に回収出来たことなど

が報告されました。

「放射能で海を汚すな

法案」請願、更に推進

事業計画案

本年度の事業計画と

して、「放射能海洋放出

規制法」の市町村議会請

願について、残る盛岡市

釜石市での可決をめざ

し、さらに放射能監視活

動の推進、講演会の企画

などが提案されました。

海を守るため

「原発・核燃反対」へ

討議では、未だ収束の

見通しさえ立たない福

島原発事故が海を放射

能で汚染し被害が拡大

していることが指摘さ

れ、会の「海を守る」と

いう運動は、人類と共存

出来ない原発や核施設

反対の運動として一層

強力に進められるべき

と話合われました。

原発推進見直しと

核燃再処理中止を

【総会決議】

大津波災害に追い打

ちをかけた福島原発震

災の悲惨な実態は、私た

ちの要請に耳を貸さな

かった政府、事業者の誤

りを明らかにした。政府

は直ちに原発推進政策

を見直し、同時に核燃再

処理事業を直ちに中止

するべきである。福島

の放射能汚染は三陸沿岸

の漁業、海産物を危うく

する。私たちは住民の命と健康を守るため、運動を継続する覚悟であり、政府や原子力関連企業に対して、汚染防止のための速やかな再処理事業中止の決断を求める。

＊救援募金、贈呈される
「地域の情報を語る会」という函館に事務局を置く市民グループから三陸の被災者救援の募金が送られて来ました。同協会

報には「六ヶ所再処理工場から三陸の海を守る運動」について岩手からの報告記事が連載されました。今回募金を会員に呼びかけたところ相当額が集まり「岩手の会」に送金されてきました。豊かな三陸の海を守る会、放射能から気仙の浜辺を守る鯉の会、三陸の海を放射能から守る気仙沼の会」に贈呈されました。

高い値も、県南磐井地区放射能測定値

総会に来賓として出席した「岩手の会」世話人



永田文夫さん

の永田文夫さんは、福島原発震災発生後の岩手の

放射能汚染について発表しました。

永田さんは特に岩手県南磐井地区の数値が高くなっていることを指摘しました。

例えば磐井地区小学校四二校の地上1mの平均値の0.23μSv/時（八七六ト/時は、一年（八七六〇時間）間、このまま持続すれば2.0ミリシーベルトとなり、一般人の年間法定許容量の一ミリシーベルトを越えています。

岩手県内の詳しい数値はホームページ「再処理／岩手の環境」に掲載。

岩教組と永田合同調査		空間線量率 (測定日)
磐井地区小学校	42校	
地上 1m	0.077-0.56μSv/時 (5/14-15)	
平均	0.23μSv/時	
胆沢江刺地区小学校	7校	
地上 1m	0.77-0.268μSv/時 (5/22)	
平均	0.13μSv/時	

気仙地区公的機関	7カ所の平均	
地上 1m	約0.11μSv/時 (6/1)	
宮城県栗原市の小学校	29校の平均値	
地上 1m	0.18μSv/時 (6/19-10)	
宮城県丸森町周辺の学校保育園	17校平均	
地上 1m	0.88μSv/時 (5/3)	

「五重の障壁」は何故突破されたのか



岩間せんせいのわかりやすい授業



福島第一原発事故について 講師 理科教育研究者 山石間滋さん

つて来たが、「核燃料ペレット」も「ジルコニウムサヤ管」も「圧力容器」も「格納容器」も、そして最後の「建屋」も破られてしまった。

崩壊熱のすさまじさ 原発が運転停止しても、中の死の灰は、強い放射線を出し続け、そのほとんどは熱に変わる。これを「崩壊熱」と言い、停止直後は500ワット電気コタツ二四万個分（第一、二号炉の場合。第一号炉は一四万個分）ある。消防ポンプくらいでは焼け石に水。だからメルトダウンした。五〇年経っても二、三号炉の中には、コタツ千個分（一号炉は約六〇〇個分）の崩壊熱がある。こんなものが日本中から集められるのが再処理工場。

「原発の絶対安全」は証明出来ない 電力会社は原発は「五重の安全障壁で守られているから絶対安全」と言

岩手県調査		空間線量率 6月6日
一関市合同庁舎		
地上 50cm	0.21μSv/h	
地上 1m	0.19μSv/h	
盛岡市環境保健研究センター		
地上 50cm	0.06μSv/h	
地上 1m	0.05μSv/h	
*盛岡は平常値		

燃料とプールの蓄積されている使用済み核燃料の総量はチエルノプイリの約一〇倍。どれか一つの圧力容器が爆発し、死の灰がまき散らされ、誰も近

づけなくなり、何も出来ず他の炉も次々に爆発する危険性があった。そうすれば首都圏全員避難。浜岡の次は

六ヶ所再処理工場 原発の重大事故は今回の福島まで、公表されているもので三度目。再処理工場の爆発事故は世界で二六回（*1）あったと言

う。ノルウェー政府は再処理事故の場合、風向きによっては「八〇〇キマで避難」（*2）としている。再処理工場事故は原発事故の何倍もの「危険度」「汚染範囲」なのに、ほとんどの人は知らない。もっと知らせる手立てが必要である。

（*1）独立行政法人「原子力安全基盤機構」の報告書（二〇〇七年三月）による。
（*2）ノルウェー政府アセスメント（二〇〇八年一〇月）

岩間滋さんを囲む 学習会（無料）
七月二十九日（金）
六時 専立寺にて
（盛岡市名須川町）

ナターシャ・グジー、
救援コンサート（無料）
七月二十六日（火）
十四時開演
気仙沼 ホテル観洋
サンライズにて